

JD-Xi バージョン 1.10 追加マニュアル

JD-Xi プログラム・アップデート

JD-Xi のシステム・プログラムをアップデートするための手順を記載します。

バージョンの確認方法

システム・プログラムをダウンロードする前に、JD-Xi のバージョンを確認してください。

1. [Menu/Write] ボタンを押します。
2. Cursor [▶] ボタンを何度か押して「Version Info」を選び、[Enter] ボタンを押します。



VERSION INFO
Version 1.02

画面に現在のバージョンが表示されます。

アップデートに必要なもの

JD-Xi をアップデートするために、下記の機器が必要になります。

- JD-Xi 本体



- パソコン



- USB ケーブル



システム・プログラムのダウンロードと圧縮ファイルの解凍

ローランドのホームページより、アップデート・ファイルを適当なフォルダーにダウンロードしてください。

<http://www.roland.co.jp/support/>

ダウンロードしたファイルは zip 形式のアーカイブのファイルになっていますので、ダウンロード後、解凍してください。解凍が終了すると、「jdxi_up.bin」というファイルの入ったフォルダーが表示されます。

アップデートにおける注意点

- 本アップデートが正常に終了した場合は、本体メモリーの内容が失われることはありませんが、不慮の事故を防ぐためアップデート作業をする前に本体メモリーの内容をパソコンに保存しておくことをおすすめします。詳しくは、取扱説明書の「データのバックアップと復元をする」をご覧ください。
- パソコンと USB ケーブルで接続しバックアップを実行すると、パソコン画面にフォルダーが開き、「JD-Xi」フォルダーが見えます。この「JD-Xi」フォルダーごとパソコンにコピーしてください。また、リストアを実行するときも、「JD-Xi」フォルダーごとコピーしてください。「JD-Xi」フォルダーの下にある、「BACKUP」フォルダーや一部のファイルのみをコピーしても正しくバックアップやリストアを実行することができません。

- データのバックアップやリストアをするとき、パソコン側で JD-Xi の接続を解除（アンマウント）しても、バックアップやリストアが進まないことがあります。その場合は、パソコン側で接続を解除したあと、JD-Xi の [Exit] ボタンを押してください。
- Mac をお使いの場合は、接続を解除したあと、必ず最後に JD-Xi の [Exit] ボタンを押してください。
- バックアップしたユーザー・データの数が多い場合、リストアに 10 分程度かかることがあります。

アップデート方法

下記の手順にしたがって、プログラム [jdxi_up.bin] を JD-Xi にインストールしてください。

※ アップデートを実行している間は、JD-Xi の電源を絶対に切らないでください。本体システムが正常に立ち上がらなくなる可能性があります。

1. USB ケーブルで JD-Xi とパソコンを接続します。
2. [Tap] ボタンを押しながら JD-Xi の電源を入れます。
3. 画面に「UPDATE MODE」と表示されたらボタンから指を離します。
画面表示が「waiting file...」となり、パソコンの画面に「JDxi」フォルダーが開きます。
4. 「JDxi」フォルダーにアップデート・ファイル (jdxi_up.bin) をコピーします。
5. パソコンの操作で JD-Xi の接続を解除（アンマウント）します。
アップデートが開始されます。
終了すると、「finished.」と表示されます。



waiting file...



finished.

メモ

- JD-Xi の接続を解除（アンマウント）しても、アップデートが進まないことがあります。
その場合は、パソコン側で接続を解除したあと、JD-Xi の [Tap] ボタンを押してください。
- Mac をお使いの場合は、接続を解除したあと、必ず最後に JD-Xi の [Tap] ボタンを押してください。

6. JD-Xi の電源を入れ直します。

JD-Xi Ver.1.10 の追加機能

ユーザー・データをパソコンに書き出す

JD-Xi で作成したプログラム（音色やパターン・データ）を、パソコンに書き出すことができます。また、書き出したデータを追加バンクに読み込むことができます。

➔ 「パソコンに保存したデータを JD-Xi に追加する」(P.2)

ユーザー・データをバックアップしたり、作ったデータを JD-Xi ユーザーとシェアしたりすることができます。

1. USB ケーブルで JD-Xi とパソコンを接続します。
2. [Shift] + [Enter] ボタンを押しながら JD-Xi の電源を入れます。



3. 画面に「Export」と表示されたらボタンから指を離します。

4. Cursor ボタンと Value ボタンを使って、書き出すプログラムの範囲を決定します。



書き出せるプログラム数は、最大 64 個（1 バンク分）です。

5. [Enter] ボタンを押します。

画面表示が「Export ...」となり、パソコンの画面に「EXPORT」フォルダーが開きます。



6. 「EXPORT」フォルダーの中にある、「JD_XI_EXP.BIN」ファイルをパソコンにコピーします。

7. パソコンの操作で JD-Xi の接続を解除（アンマウント）します。

JD-Xi の画面が「Export」に戻ります。

ご注意！

Export を実行している間は、JD-Xi の電源を絶対に切らないでください。本体システムが正常に立ち上がらなくなる可能性があります。

メモ

- JD-Xi の接続を解除（アンマウント）しても、「Export」画面に戻らない場合は、JD-Xi の [Exit] ボタンを押してください。
- Mac をお使いの場合は、接続を解除したあと、必ず最後に JD-Xi の [Exit] ボタンを押してください。

8. 連続してデータを書き出す場合は、手順 4 から 7 を繰り返します。

9. 終了する場合は、JD-Xi の電源を切ります。

ヒント

- ユーザー・データを書き出しても、JD-Xi 本体のユーザー・データは消えません。
- 書き出したユーザー・データは、名前を変更することができますが、拡張子 .BIN は変更しないでください。

パソコンに保存したデータを JD-Xi に追加する

上記の操作でパソコンに書き出したデータや、Roland の Web サイト [Axial] からダウンロードしたデータを、JD-Xi に取り込みます。

1. USB ケーブルで JD-Xi とパソコンを接続します。

2. [Enter] ボタンを押しながら JD-Xi の電源を入れます。

画面表示が「Extra Bank...」となり、パソコンの画面に「EXTRA」フォルダーが開きます。



「EXTRA」フォルダーの中には、「[S]」から「[Z]」まで、8 つのフォルダーが見えます。

3. データを入りたいフォルダー（[S] ～ [Z]）を開きます。

4. 開いたフォルダーの中に、JD-Xi に取り込みたい .BIN ファイルをコピーします。

5. パソコンの操作で JD-Xi の接続を解除（アンマウント）します。

データの取り込みが始まります。

ご注意！

データの取り込みを実行している間は、JD-Xi の電源を絶対に切らないでください。本体システムが正常に立ち上がらなくなる可能性があります。

メモ

- JD-Xi の接続を解除（アンマウント）しても、データの取り込みが進まないことがあります。その場合は、パソコン側で接続を解除したあと、JD-Xi の [Exit] ボタンを押してください。
- Mac をお使いの場合は、接続を解除したあと、必ず最後に JD-Xi の [Exit] ボタンを押してください。

終了すると、「Completed. Turn off power.」と表示されます。



6. JD-Xi の電源を入れ直します。

バンクを切り替えていくと、データを追加したバンクが選べるようになります。

たとえば、「[S]」フォルダーにデータを入れた場合は、「[S]」バンクが選べるようになります。

メモ

- 1 つのフォルダーに複数ファイルを置くことができますが、1 つのファイルしか取り込めません。
- 追加したプログラムの数が多い場合、JD-Xi を起動直後、パネル操作の反応が鈍くなることがあります。
- パソコンの画面に「空き容量が不足しています。」という表示が出た場合、それ以上ファイルを追加できなくなります。不要なファイルを消去してください。
- BIN 形式以外のファイルを、「EXTRA」フォルダー内に置かないでください。

何かのトラブルで「EXTRA」フォルダー内のデータが壊れた場合に備えて、BIN ファイルのバックアップをパソコンに保存しておくことをおすすめします。

パターンに記憶されたつまみやホイールの動きだけ消去する

パターン再生中に、「[Enter]」ボタンを押しながら「[Erase]」ボタンを押すと、現在選ばれているパートのつまみやホイールの動きだけを消去することができます。押している間、消去が実行されます。Drums パートはすべてのインスト（鍵盤にアサインされた楽器）で記憶している動きを消去しますので、ご注意ください。

メモ

録音したエフェクトつまみの動きは消去できないので、録音し直してください。

一時的にプログラムを切り替えられないようにロックする（誤操作防止）

音色やパターンの編集中に、誤って Value [-] [+] ボタンでプログラムを切り替えないように、ロックすることができます。

1. [Menu/Write] ボタンを押しながら、[01] ボタンを押します。

プログラム番号の下にあったカーソル（下線）が消え、Value [-] [+] ボタンでプログラム切り替えができなくなります。

元に戻す場合は、もう一度 [Menu/Write] ボタンを押しながら [01] ボタンを押します。

※ この設定は一時的なもののなので、保存することはできません。